

萬鉄五郎記念美術館

東和エリア
美術ニュース

no.23

2016.

4月号

KONOMA

木の間通信

萬鉄五郎を解いて、見る。展 —観る・読む・語る 萬鉄五郎—

2016年4月23日(土) ~ 7月10日(日)

●会場：萬鉄五郎記念美術館



萬鉄五郎《丘のみち》

1918年 油彩・画布 萬鉄五郎記念美術館

- 休館日
月曜日(月曜が祝日の場合翌日)
- 開館時間
8:30 ~ 17:00 (入館は16:30まで)
- 入館料
一般 500(450)円
高校・学生 350(300)円
小・中学生 200(150)円
*()内20名以上団体料金

日本近代を代表する画家・萬鉄五郎は油彩作品に加えて水彩画、版画も手掛け、また水墨画にも新たな境地

を示しました。その表現様式は多岐にわたり、それゆえ一般の美術ファンからは「難しい」「よくわからない」と敬遠されがちでもありました。

そこで「私の好きな萬鉄五郎、この一点」というテーマで、美術関係者や著名人にエッセイをお寄せいただき、それを手掛かりに萬本人や作品へ親しみをもって鑑賞いただける展覧会を開催いたします。ぜひこの機会に、様々な角度から語られる萬やその作品に触れ、魅力を感じていただければと思います。

第36回 萬鉄五郎祭

●会場：萬鉄五郎記念美術館前

《式典》 2016年 5月 3日(祝) 14:00～14:30 献花、「鉄人独語」朗読など

画家・萬鉄五郎の命日にあたる5月1日にあわせ、ご遺族や全国の萬ファンを交え、その画業を偲びます。

関連事業

《写生会》 2016年 4月24日(日) 9:00～12:00 会場／萬鉄五郎記念美術館周辺
参加費／500円 持ち物／鉛筆・絵の具・画板・敷き物(画用紙は配布します)

《写生会展示会》 2016年 4月25日(月)～5月16日(月) 9:00～18:00
会場／花巻市立東和図書館ロビー(花巻市東和町安俵6-90)

《茶会》 2016年 5月4日(火・祝) 10:00～16:00 会場／萬鉄五郎記念美術館前
実施団体／東和町茶道研究会

●申込・問合せ先 萬鉄五郎祭実行委員会 花巻市東和町土沢5-135 萬鉄五郎記念美術館内 電話0198-42-4402

土澤アートクラフトフェア

2016年 5月 3日(火・祝) 4日(水・祝) 10:00～16:00

●会場：萬鉄五郎記念美術館前庭&土澤商店街

アート作品・クラフト作品などクリエイターのお店280組が大集合！

●問合せ先 土澤アートクラフトフェア事務局

岩手県花巻市東和町土沢5-405「キクヤ」内 電話：0198-42-2632 メール：tuchizawa_market@yahoo.co.jp
ホームページ：http://artstsuchizawa.com/ ブログ：http://artstsuchizawa.blog.fc2.com/



喫茶「八丁土蔵」



萬鉄五郎の本家「八丁」にあった土蔵を移築復元した、ギャラリーと喫茶スペースです。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。 営業時間：10:00～16:00 (lo.15:30)

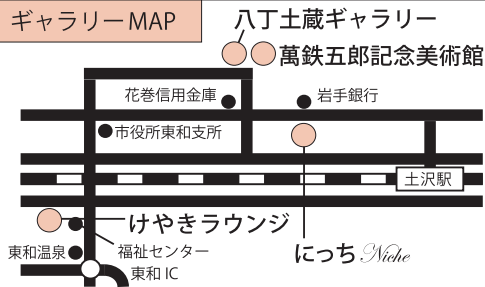
美術の街「土沢」 ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて「美術の街」土沢めぐりをしてみてはいかがでしょうか。

【4・5月の土沢イベント情報】

5月3・4・5日 毘沙門まつり・全国泣き相撲大会

ギャラリーMAP



萬鉄五郎記念美術館 八丁土蔵ギャラリー

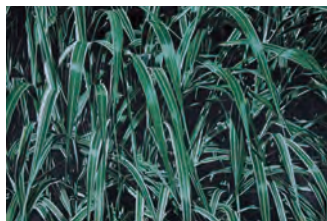
花巻市東和町土沢 5-135 萬鉄五郎記念美術館内
9:00-16:30 月曜休 (祝日の場合は翌日) 入場無料

iwate コンテンポラリーアート vol.5

五十嵐 彰 展 —軌跡 kiseki—

4/23 (土) ~ 7/10 (日)

昨年11月急逝した花巻市東和町在住の画家・五十嵐彰の回顧展。
小さな花々や木々など身近な自然を緻密に描いた作品。



Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205
10:30~18:00 (最終日は16:00まで) 入場無料

似内 盈子 油彩展

~四季の詩シリーズ~

4/4 (月) ~ 4/30 (土)

身近な風景・人物・収穫した野菜などを描いた作品。



八重樫紀史 鉛筆画展

(仮題)

5/1 (日) ~ 5/31 (木)

仙台市在住作家の映画スタア鉛筆画展。



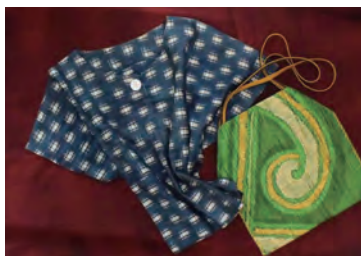
世界の雑貨とギャラリー につち Niche

花巻市東和町土沢8-115 こぼら土澤1階
10:00~17:00 火曜定休 入場無料

下坂久美子作品展 「布ほほえむ」

4/6 (水) ~ 4/18 (月)

着物地や帯が、服やバッグに生まれ変わりました。
下坂久美子さんの三回目の作品展。ひとつひとつの作品から布への慈しみが伝わってきます。



鎌近

萬鉄五郎、松本竣介が日本近代美術の重要な画家として、然るべき評価を得る始まりが、鎌倉近代美術館からであった。1951(昭和26)年、戦後初の公立近代美術館として、開館した神奈川県立近代美術館は、鎌倉鶴岡八幡宮の敷地内にあることから、通称「鎌近(カマキン)」として親しまれてきた。残念ながらこの3月末をもって、建物の老朽化と神社との借地契約の終了により65年の幕を閉じた。(葉山に新館)

私が初めて鎌近に行ったのが、同館初の本格的な海外展「クレール展」(1969(昭和44)年)のときであった。大好きなクレールの作品を180点も見られるとあって、盛岡から夜行列車に乗って行ったことを想い出す。そしてクレールとの縁は、その32年後の岩手県立美術館の開館記念展として企画した「クレール展」(岩手日報社共催)に結びつ

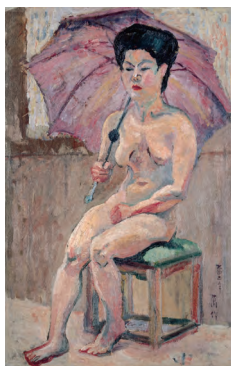
いた。鎌近の最初のクレール展以来、何度もクレール展を手掛けている中日新聞社(東京新聞)、当時の相羽規充事業局長の協力もあり実現することができた。その企画を進めているとき、丁度来日中のクレールの孫アレクサンダー・クレール(クレール財団理事長)と会い開催を依頼した。クレールの「旅」をテーマにした同展は、鎌近と共同企画となり、同館の開館50周年記念展としても開催された。

鎌近は、長年館長を務めた土方定一の指導のもと、日本近代美術の企画展を積極的に取り上げた。テーマを設け調査、作品を集めて企画展示するという今日一般化している展覧会方式を始めたのが鎌近であった。1962(昭和37)年の同館開催の「萬鉄五郎展」こそが、萬芸術発掘の原点であり、公立美術館での最初の展覧会となった。このとき、土方館長と担当学芸員陰里鉄郎が、萬の生誕地土沢の所蔵者ら関係者と会い調査を行っている。土方定一は、萬芸術について「その全作品をつらぬいている透徹した強靱な造形のシステムと、その背後にある萬鉄五郎の詩の純

粋な美わしさと的一致を、ぼくは、いつも讃嘆しながら思い出す」(『萬鉄五郎の世界』)と記している。その後も生誕百年記念「萬鉄五郎展」(1985(昭和60)年)の開催など萬の評価を高めた。

また2歳から小学3年まで花巻で過ごした松本竣介の、没後初の美術館での展覧会「松本竣介展」が、1958(昭和33)年鎌近で開催され、松本が評価されるきっかけをつくりあげた。そして禎子夫人や所蔵家畑山昇麓(盛岡)から作品の寄贈を受け「松本竣介記念室」が設けられた。その後も萬鉄五郎と松本竣介を広く知らしめる展覧会を幾度となく開催され、来年の萬の没後90年展も、共同企画として鎌近、岩手県美と当館ですすめている。

萬鉄五郎記念美術館長 中村光紀



萬鉄五郎《日傘の裸婦》1913年
油彩・画布 神奈川県立近代美術館蔵

萬鉄五郎記念美術館 岩手県花巻市東和町土沢 5-135 Tel.0198-42-4402 8:30am. ~ 5:00pm.

yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/503/p004177.html> 月曜休館 (祝日の場合その翌日)

発行人/東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明